

〈3〉 最近の中国の軍事・安全保障動向

— 軍の汚職・腐敗と再々編、緊張高まる中台関係、 進展する海洋進出 —

京都先端科学大学 准教授 土屋 貴裕

はじめに：軍における「異例」の事態と 高まる周辺地域での軍事的緊張

2024年6月17日から19日にかけて、陝西省延安市で中央軍事委員会政治工作会議が開催された。この会議は2014年10月30日に福建省上杭県古田鎮で初めて開かれて以来、10年ぶりの開催である¹。この全軍政治工作会議は、軍内部の政治的統制を強化するための重要な会議と位置づけられており、習近平主席は軍の政治、思想、規律に「根深い問題」があると指摘し、反腐敗闘争のさらなる強化を指示した。

この会議では、李尚福と魏鳳和という二人の元国防部長が党籍を剥奪されるという重大な決定が下されたとみられ、この会議後に李尚福前国防部長と魏鳳和元国防部長の党籍剥奪が公表された。3期目の習近平政権下、李尚福が国防部長を解任されたのみならず、魏鳳和元国防部長とともに党籍を剥奪されることになったが、これに関連して2023年後半から2024年前半にかけて多くの軍高官が失脚する「異例」の事態が生じている。

これは、1期目の習近平政権下で元中央軍事委員会副主席2名をはじめとする一連の「反腐敗闘争」

に匹敵する大きな衝撃を軍内外にもたらしている。また、「反腐敗闘争」とともに、軍の再々編が進められている。そうした中、2024年1月に行われた台湾総選挙と頼清徳新政権の発足で中国と台湾との間の緊張が高まる一方、南シナ海では中国海警局の船とフィリピン軍のボートとの衝突、臨検事件が発生するなど、軍事的な緊張が高まっている。

そこで、本稿では、軍事・安全保障情勢、とりわけ中国の軍における「異例」の事態と再々編がもたらす党軍関係への影響を分析するとともに、台湾総選挙に伴う頼清徳新政権の発足とそれに伴う中国軍による軍事演習によって緊張が高まる中台関係、および空母「福建」の初の試験航海やフィリピンとの衝突による海洋主権を擁護するための強硬な姿勢など、着実に進展する海洋進出の狙いについて読み解いていきたい。

1. 軍に対する政治工作の強化と 「反腐敗闘争」の継続

(1) ロケット軍の汚職・腐敗と「反腐敗闘争」

2023年7月31日の中国中央テレビおよび翌8月1日の『人民日報』は、ロケット軍の司令員に海軍

¹「全軍政治工作会議在古田召開 習近平出席會議併發表重要講話」新華網、2014年11月1日。<http://www.xinhuanet.com/politics/2014-11/01/c_1113074055.htm> なお、この会議は1929年に開かれた中国共産党紅軍第四軍第九次代表大会、通称「古田会議」にちなんで「新古田会議」と呼ばれている。

出身の王厚斌（元海軍副司令員）、政治委員に空軍出身の徐西盛（元南部戦区空軍政治委員）がそれぞれ就任するとともに、上將に昇格したことを報じた²。ロケット軍の司令員と政治委員が同時に交代し、その後任をロケット軍以外の軍種から抜擢するのは極めて異例で、その背景にはロケット軍の汚職・腐敗問題が関係していることを示唆した。

実は、これに先立って7月26日には、2017年10月以降の装備調達に対する入札審査活動の調査に関する公告が出されており、装備調達をめぐるさまざまな問題が指摘されている³。さらに、7月28日付の香港英字紙サウスチャイナ・モーニング・ポストは、「ロケット軍の李玉超司令員、劉光斌副司令員、張振中副司令員が装備調達をめぐる汚職で中央軍事委員会規律検査委員会の調査員に連行された」と報じた⁴。

また、7月31日付の香港紙「星島日報」は、2023年7月にロケット軍の司令官である李玉超をはじめ、副司令官らが汚職摘発機関の調査を受けたことに加えて、呉国華・ロケット軍副司令員が7月4日に亡くなったのは自殺であったと報じた。これら一連の事件に関連して、正式に発表はないものの、ロケット軍幹部だけでなく軍工企業の幹部も複数名処分されたとみられている。

さらに、9月15日付の英フィナンシャルタイムズは、複数の米国政府高官の話として、米国政府が「李尚福国防部長が中国当局の調査対象となり任務を剥された」と結論づけた」と報じた。李尚福は、2017年9月に張又俠の後任として中央軍事委員会装備発展部部長に任命されており、李の就任以降の期間が調査の対象となっていることから装備調達をめぐる汚職の責任を理由に解任されたことを暗に意味するものであった。

実際のところ、李国防部長は2023年8月末に北京で開かれた「中国アフリカ平和安全フォーラム」の

出席を最後に表舞台から姿を消していたが、10月24日、全国人民代表大会（全人代）常務委員会が、李尚福国防部長（国務委員、国家中央軍事委員会委員）の解任を決定した。しかし、この時点では解任理由と後任人事は明らかにされなかった。

その後12月29日になってようやく全人代常務委員会は、董軍・前海軍司令員を新たな国防部長に任命した。さらに、ロケット軍をめぐる汚職に絡んだとみられる軍の全人代代表9名、張振中（聯合参謀部副参謀長）、張育林（元装備発展部副部長）、饒文敏（装備発展部副部長）、鞠新春（南部戦区海軍）司令員、元装備発展部副部長）、丁来杭（元空軍司令員）、呂宏（ロケット軍装備部長）、李玉超（元ロケット軍司令員）、李伝広（ロケット軍副司令員）、周亜寧（元ロケット軍司令員）を解任したことを明らかにした。また同日、人民政治協商会議もロケット科学の第一人者と称される王小軍（中国運搬ロケット技術研究院院長）の政協委員資格を取り消す処分を決定した。2024年2月27日にも、全人代常務委員会が李志忠（中部戦区元副司令員）の全人代代表を解任したと発表するなど、余波は広がっている。

これらロケット軍をめぐる解任劇は、単なる汚職・腐敗のみならず、間諜（スパイ）行為に対する規律検査なども含まれている可能性や、軍事侵攻に慎重な軍高官が更迭された可能性も指摘されるなど、軍内外に大きな波紋が広がった。これに関連して、2024年1月6日付のBloomberg記事は、中国のロケット軍や防衛産業に広がる汚職が原因で、習国家主席が今後数年内に大規模な軍事行動を検討する可能性は低くなっていると報じた⁵。

米情報機関は、汚職に関連した不正として、「ミサイルに燃料の代わりに水を注入していた」ことや、中国西部に配備したミサイル格納庫の蓋が正常に機能しないものだったと例示し、中国軍内の汚職で「特にロケット軍に関し、全体的な能力に対する信頼喪

² 「中央軍委挙行晋昇上將軍銜儀式 習近平頒發命令狀併向晋銜的軍官表示祝賀」『人民日報』、2023年7月28日。<http://paper.people.com.cn/rmrb/html/2023-08/01/nw.D110000renmrb_20230801_1-01.htm>

³ 「中国軍方査軍備採購弊案 追遡至6年前」DW (Deutsche Welle)、2023年7月28日。<<https://www.dw.com/zh/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E5%86%9B%E6%96%B9%E6%9F%A5%E5%86%9B%E5%A4%87%E9%87%87%E8%B4%AD%E5%BC%8A%E6%A1%88-%E8%BF%BD%E6%BA%AF%E8%87%B36%E5%B9%B4%E5%89%8D/a-66375543>>

⁴ "Chinese anti-corruption investigators target top PLA Rocket Force generals, sources say," South China Morning Post(WEB), 28 July, 2023. <<https://www.scmp.com/news/china/military/article/3229150/chinese-anti-corruption-investigators-target-top-rocket-force-generals-sources-say>>

⁵ Peter Martin, Jennifer Jacobs, "US Intelligence Shows Flawed China Missiles Led Xi to Purge Army," Bloomberg, January 6, 2024. <<https://www.bloomberg.com/news/articles/2024-01-06/us-intelligence-shows-flawed-china-missiles-led-xi-jinping-to-purge-military>>

失につながっており、優先課題である近代化の一部についても後退させている」と指摘した。ただし、この「水の注入」は中国語の「注水」すなわち「水増し」の誤訳ではないかとみられる。

他方、同記事では、米情報機関の分析として、最近の汚職摘発は習主席の共産党内での統制力が依然強固なことを示しているとし、汚職撲滅や規律向上を通じて中国軍の長期的な戦闘準備に取り組んでいると指摘した。実際、ロケット軍の汚職・腐敗は、中国人民解放軍内部の腐敗の一例に過ぎず、上述の通り解任された軍高官は他軍種や中央軍事委員会の元四総部にも及んでいる。

ロケット軍は、第二砲兵部隊を前身とする核戦力および戦略ミサイルの運用を担う重要な部隊である。しかし、ロケット軍内部の汚職・腐敗問題が浮き彫りとなったように、軍の高級幹部による賄賂の受け取りや資金の不正流用が報告されており、軍の信頼性と戦闘力に対する懸念が高まっている。これは、ロケット軍の信頼性や戦力の低下だけでなく、中国の軍事・安全保障自体にも大きな影響を及ぼす可能性がある。

また、腐敗・汚職は、中国軍の内部統制にも深刻な影響を及ぼす。今回の件に限らず、歴史的にも腐敗した幹部が個人的利益のために正規の指揮系統を無視した装備調達や配備、上職への贈収賄がたびたび表面化してきた。これは、軍全体の指揮系統の乱れをもたらし、効果的な統制を困難にする。高級幹部の腐敗が明るみに出ること、下級将校や兵士の間で「上が腐敗しているのだから」といった意識が広がり、全体的な規律の低下にもつながる。

そのため、習近平政権の反腐敗闘争の一環として、腐敗に関与した幹部の摘発や処罰を行い、徹底的な反腐敗闘争を展開しているとみてよいだろう。2024年1月12日に行われた中央軍事委員会の紀律検査委員会拡大会議では、何衛東中央軍事委員会副主席が「厳格な軍の統治を断固推進する」と述べ、軍の風紀を清廉にして、反腐敗闘争を導いていくと述べた。

(2) 10年ぶりの全軍政治工作会議と李尚福と魏鳳和の党籍剥奪

こうしたロケット軍をはじめとする反腐敗闘争と軍の綱紀粛正を総括し、また一層強化すべく、冒頭で述べた通り、2024年6月17日から19日に陝西省延安市で中央軍事委員会政治工作会議が開催された⁶。この会議は10年ぶりの開催であり、軍内部の政治的統制を強化するための重要な会議として位置づけられている。この会議で習近平主席は軍の政治、思想、規律に「根深い問題」があると指摘し、反腐敗闘争のさらなる強化を指示した⁷。

この会議では、李尚福と魏鳳和という二人の元国防部長が党籍を剥奪されるという重大な決定が下されたとみられ、この会議後に李尚福前国防部長と魏鳳和元国防部長の党籍剥奪が公表された。これは、彼らが汚職や不正行為に関与していたことが明らかになったためであり、習近平政権の反腐敗闘争の一環として位置づけられる。彼らの失脚は、軍内部の腐敗問題の深刻さを浮き彫りにし、党の絶対的指導を再確認する契機ともなった。

李尚福と魏鳳和2名の党籍剥奪は、「政治紀律」違反の重大性を示しており、習近平政権による軍内部の反腐敗闘争が一層強化されることを示している。軍内部での政治規律がより厳格に適用され、党中央との「高度の一致」を保つことが強く求められるようになる。また、軍内部での監視体制がさらに強化される可能性がある。特に高級幹部に対する監督が厳しくなり、不正行為や党の方針からの逸脱を防ぐ取り組みが増加することが予想される。

加えて、高級幹部の失脚は、軍内部でのさらなる大規模な人事異動につながる可能性を示唆している。具体的には、習近平主席に忠実な幹部が重要ポストに就く機会がより一層増え、軍全体の政治的方向性がより党中央の意向に沿ったものになる可能性がある。習近平主席は「政治紀律」の遵守を特に重視しており、軍内部での昇進や人事において、専門的能力はもちろん、政治的忠誠度がより一層重視さ

⁶ 欧燦、費士廷「中央军委政治工作会議在延安召開 習近平出席會議併發表重要講話」中国軍網、2024年6月19日。<http://www.81.cn/jw_208551/jdt_208552/16317280.html>、および欧燦、費士廷「中央军委政治工作会議在延安閉幕 張又俠何衛東出席會議併講話」中国軍網、2024年6月20日。<http://www.81.cn/yw_208727/16317220.html>

⁷ 李健、孫興維「中央军委办公厅印发《关于坚持艰苦奋斗勤俭建军 提高军队建设质量效益的措施》」中国軍網、2024年6月20日。<http://www.81.cn/yw_208727/16317218.html>、および費士廷、張磊峰、錢宗陽「習主席出席中央军委政治工作會議併發表重要講話在與會代表中引起強烈反響」中国軍網、2024年6月21日。<http://www.81.cn/yw_208727/16317279.html>